

# 鳥取県勢要覧

令和3年版



## 〈目 次〉

鳥取県行政区画図	1
利用上の注意	1
沿革・位置	2
土地・気象	3
人口	4
事業所	7
農林水産業	8
製造業	10
商業	12
観光	13
貿易	14
財政	15
労働・賃金	16
住宅	17
生活	18
県民経済計算	19
電気・ガス・水道	20
運輸	21
通信	22
教育	23
文化	24
男女共同参画	25
N P O	26
社会保障	27
健康・医療	28
環境	29
防災・安全	30
鳥取県の1日	32
全国における鳥取県	33
市町村勢一覧	34
国立・国定・県立自然公園、 世界ジオパーク	40

(表紙の写真)

### 「とっとり花回廊のサルビア」

©とっとり花回廊

西伯郡南部町にあるとっとり花回廊は、東京ドーム約11個分の広さで日本最大級のフラワーパークです。

一年中楽しめる大温室や展示館、1 kmの屋根付き展望回廊があり、雨の日でも傘をささずに園内を展望することができます。

# 鳥取県行政区画図

(令和3年4月1日現在)  
4市、14町、1村



## 利用上の注意

鳥取県勢要覧は、鳥取県に関し、主として令和2年(度)または令和元年(平成31年)(度)の統計資料により編集しています。

統計表で「年」とあるのは暦年(1月~12月)、「年度」とあるのは会計年度(4月~翌年3月)を示し、年月日の期日は調査時点を示しています。

単位換算または四捨五入したために、表中の総数とその内訳とが一致しない場合があります。

本表に掲げた数値のうち、これまで発表した数値と異なるものがあるのは、その後修正または改定があったためです。

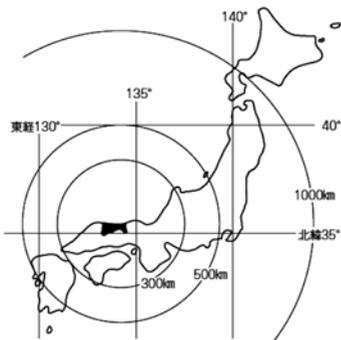
統計表中の符号の用法は、次のとおりです。

- 「0」「0.0」 単位未満のもの
- 「-」 該当数字なし
- 「…」 不詳・資料なし
- 「△」 減少・マイナス
- 「x」 数値が秘匿されているもの

統計表中の順位は原則として数値の大きい順につけています。数字が小さい順につけているものについては、「\*」印を付けています。

# 沿革・位置

## 鳥取県の位置



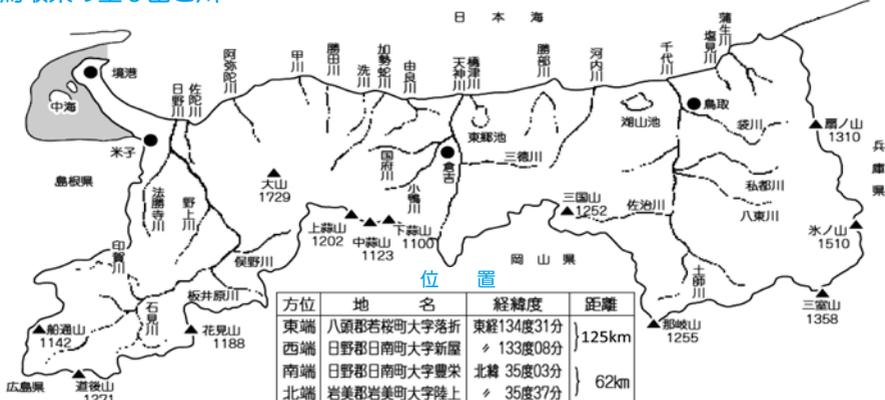
古代、鳥取平野には湖や沼が多く、水鳥などがたくさんいて、この鳥を取ることを仕事にしていた鳥取部（とりべ：部は職業集団の名称）が住んでいたことから、この辺りを鳥取と呼ぶようになったということです。

江戸時代には、因幡、伯耆の二国を合わせた鳥取藩を池田氏が治め、鳥取城を居城としていました。

明治になり、廃藩置県（明治4年）で鳥取藩から鳥取県になりましたが、明治9年、島根県に合併されました。

しかし、明治14年、再び鳥取県が分立・再置され、今日に至っています。

## 鳥取県的主要な山と川



## 鳥取県の変遷

年月日	因幡国	伯耆国	隠岐国
明治元年(14郡)	鳥取藩		松江藩管理
明治4年7月14日(廃藩置県)	鳥取県		浜田県管理
明治4年12月17日	鳥取県		
明治9年8月21日	合併により島根県		
明治14年9月12日	鳥取県(再置)		
明治22年10月1日	鳥取市設置		島根県
明治29年4月1日	鳥取市(1市6郡)		
昭和2年4月1日	米子市設置		
昭和28年10月1日	倉吉市設置		
昭和31年4月1日	境港市設置		
平成16年11月1日(4市5郡)	鳥取市 米子市 倉吉市 境港市 岩美郡 八頭郡 東伯郡 西伯郡 日野郡		
現在	※気高郡消滅(鳥取市との合併により)		

## (土地)

令和2年3月31日現在の本県の総面積は3,507km<sup>2</sup>で、全国の0.9%を占めており、都道府県別では41番目となっています。これを土地利用状況別に見ると、森林が全体の73.9%を占めています。

## (気象)

令和2年の平均気温は、年間を通して平年に比べ大きな変化はありませんでしたが、月ごとにみると4月は大陸からの寒気の影響を受けて下回り、7月も梅雨前線や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が続いたため平年を下回っています。

降水量については、年全体で見ると平年を上回っています。

資料 鳥取地方気象台「鳥取県の気象」

## 気象に関する主な指標

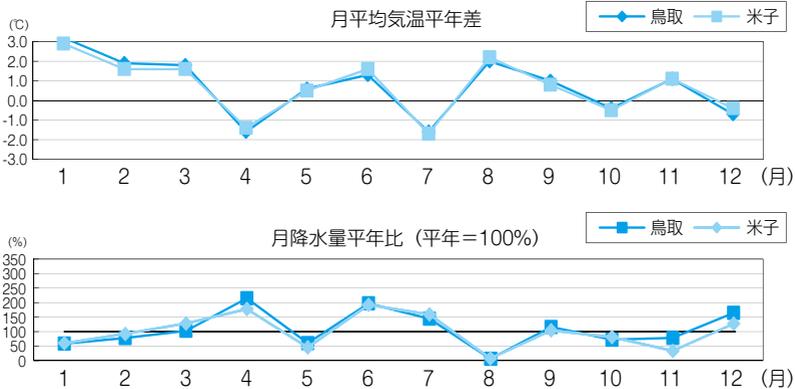
指標名	R2	平年
平均気温 (鳥取市)	15.9℃	15.2℃
年間日照時間 (鳥取市)	1,726.8時間	1,669.9時間
年間降水量 (鳥取市)	2,096.0mm	1,931.3mm

## 土地利用現況 (令和元年度)



資料 県技術企画課

## 気象経過図



※平年とは、30年間(1991～2020年)の平均値を用い、西暦年の1位の数字が1になる10年ごとに更新される。

## 鳥取・米子の気象

区分・年次	気温 (℃)			降水量 (mm)		日照時間 (時間)	最深積雪 (cm)	現象日数			
	平均	最高(極)	最低(極)	合計	最大日量			雪	霧	雷	
鳥取地方気象台	平成30年	15.7	38.5	-6.2	2,183.5	139.0	1,825.7	32	48	0	17
	令和元年	16.0	38.3	-1.8	1,536.5	73.5	1,723.4	4	38	1	20
2年	15.9	38.1	-3.2	2,096.0	115.5	1,726.8	10	13	2	45	
米子特別地域気象観測所	平成30年	15.8	38.3	-5.9	1,966.0	177.5	1,901.9	25	70	2	...
	令和元年	16.1	37.3	-1.0	1,323.5	64.0	1,792.1	7	51	0	...
2年	16.1	38.4	-3.3	1,862.5	123.5	1,813.9	15	11	1	...	

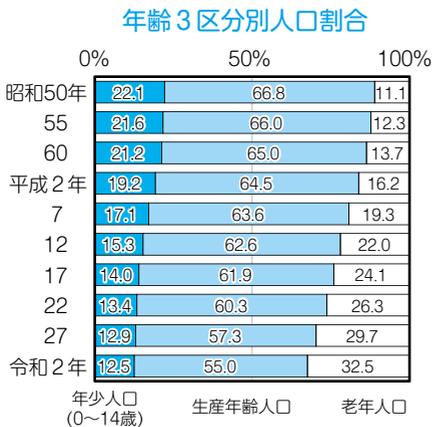
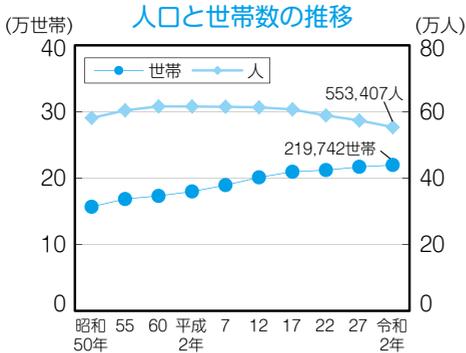
※最深積雪と現象日数(雪)は、前年8月より当年7月までの集計。

資料 気象庁「過去の気象データ」

## 人口に関する主な指標

指標名	鳥取県	全国	年次
人口密度(1km <sup>2</sup> 当たり)	157.8人	338.2人	R 2
老年人口割合(65歳以上)	32.5%	28.7%	R 2
人口増加率(H27年度比)	△ 3.5%	△ 0.7%	R 2

資料 総務省「令和2年国勢調査」

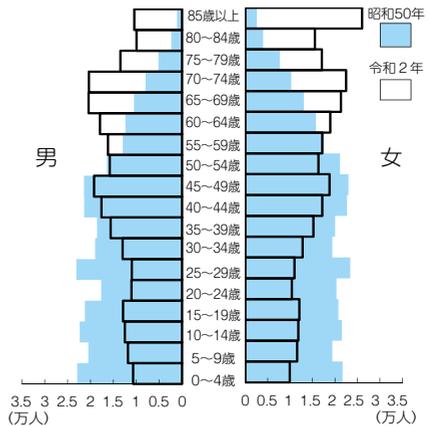


## (人口)

令和2年国勢調査によると、本県の人口は553,407人、総世帯数は219,742世帯で、平成27年に比べ、人口は20,034人の減少、総世帯数は2,848世帯の増加となっており、令和2年の1世帯あたりの人員は2.44人で、平成27年に比べ、0.13人の減少となっています。

年齢3区分別人口割合の推移を見ると、年少人口(0~14歳)割合は低下する一方、老年人口(65歳以上)割合は上昇しています。

## 鳥取県の人口ピラミッド



## 人口及び世帯数(各年10月1日)

年次	世帯数(総世帯)	人口			前回に対する人口増減	1世帯当たり人員(一般世帯)	人口密度(1km <sup>2</sup> 当たり)	
		総数	男	女				
平成12年	201,067	613,289	293,403	319,886	△ 1,640	△ 0.3	3.00	174.9
17	209,541	607,012	290,190	316,822	△ 6,277	△ 1.0	2.83	173.1
22	211,964	588,667	280,701	307,966	△ 18,345	△ 3.0	2.71	167.8
27	216,894	573,441	273,705	299,736	△ 15,226	△ 2.6	2.57	163.5
令和2年	219,742	553,407	264,432	288,975	△ 20,034	△ 3.5	2.44	157.8

資料 総務省「国勢調査」

## （世帯）

令和2年国勢調査によると、世帯人員別一般世帯数の割合では、1人世帯及び2人世帯が増加傾向にあり、割合の合計が平成17年から全体の半数以上となっています。

また、家族類型別一般世帯では、単独世帯の割合が上昇傾向で推移する一方、三世帯同居世帯の割合は低下しています。

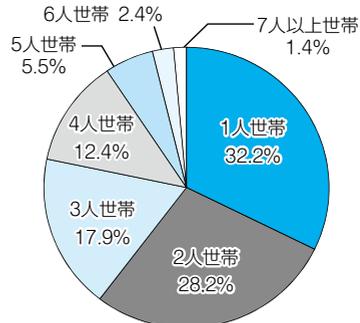
## （未婚率）

昭和50年から令和2年までの年齢階級別未婚率の推移を見ると、男性・女性とも各年齢階級において上昇傾向が見られます。昭和50年に比べ、女性の25～29歳では40.2ポイントの上昇、男性の30～34歳では38.1ポイントの上昇となっています。

## 世帯に関する指標

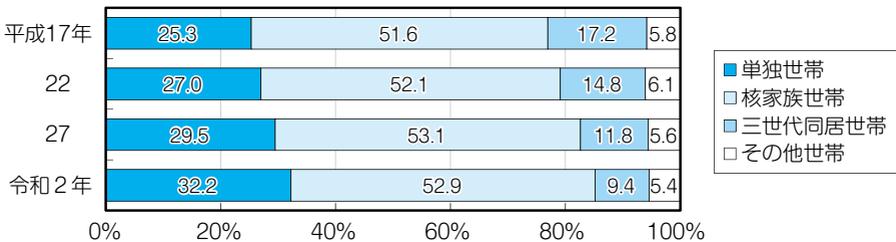
指標名	鳥取県	全国	年次
1世帯当たり人員（一般世帯）	2.44人	2.21人	R 2
核家族世帯割合（一般世帯に占める割合）	52.9%	54.1%	R 2

## 世帯人員別一般世帯数の割合

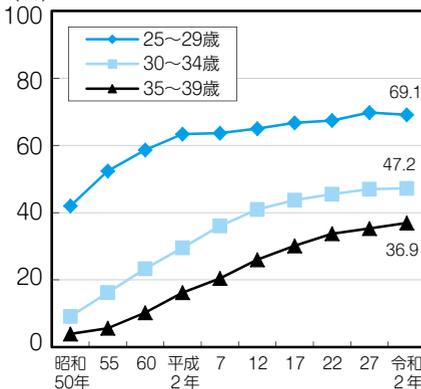


資料 総務省「令和2年国勢調査」

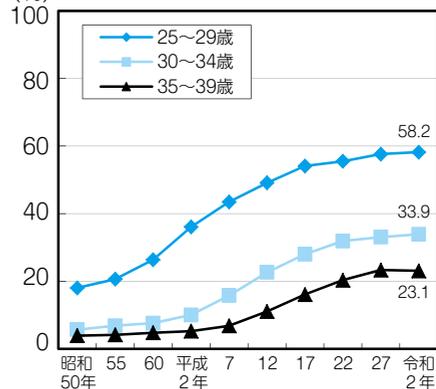
## 家族類型別一般世帯数割合の推移



## 年齢階級別未婚率（男性）



## 年齢階級別未婚率（女性）



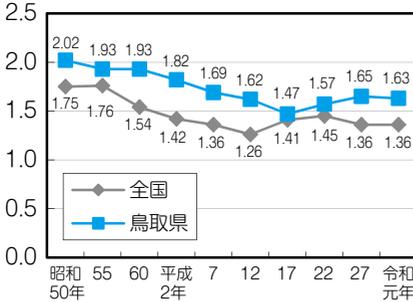
資料 総務省「国勢調査」

出生・死亡率の指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
出生率 (人口千人当たり)	7.0	17	6.9	R 2
*死亡率 (人口千人当たり)	13.0	30	11.3	R 2
合計特殊出生率	1.63	6	1.36	R 1

資料 厚生労働省「人口動態調査」、総務省「令和2年国勢調査」

合計特殊出生率の推移



資料 厚生労働省「人口動態調査」

※「合計特殊出生率」とは、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計した値である。

合計特殊出生率

$$= \left( \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \left( \begin{array}{c} 15歳から \\ 49歳までの合計 \end{array} \right) \right)$$

これは、年齢構造の影響を除いた出生率の水準を示す指標であり、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯に産むとしたときの子ども数に相当する。

(人口動態)

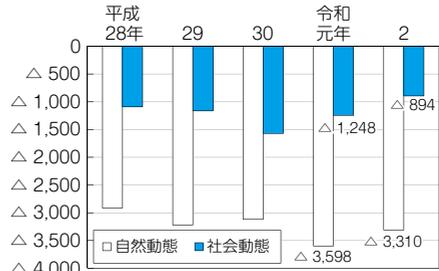
鳥取県人口移動調査によると、令和2年の出生数は3,800人、死亡数は7,110人で、その結果、自然動態は3,310人の減少となりました。

また、県外からの転入者数は9,375人、県外への転出者数は10,269人で、その結果、社会動態は894人の減少となりました。

この結果、令和2年の人口動態は、4,204人の減少となり、前年(4,846人の減少)と比べ、減少幅が縮小しました。

また、人口動態調査による合計特殊出生率をみると、鳥取県は昭和50年以降、全国平均を上回っています。

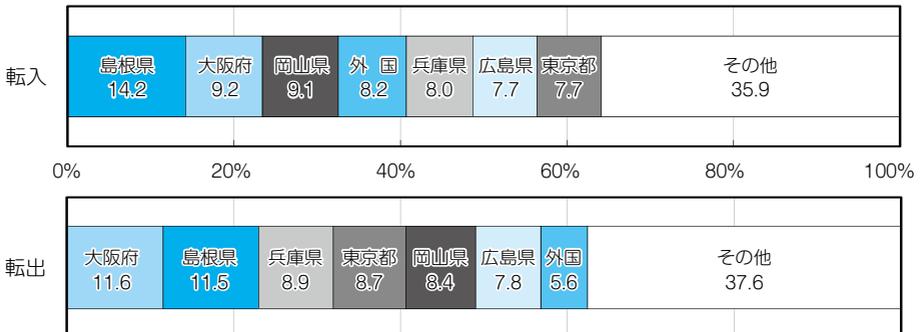
人口動態の推移



(人)

資料 県統計課「鳥取県人口移動調査」

県外移動者の前住地・転出先割合  
(令和2年1月1日～令和2年12月31日)



資料 県統計課「令和2年鳥取県人口移動調査」

## (事業所)

平成28年の民営事業所数は25,718事業所、従業者数は230,700人となっています。

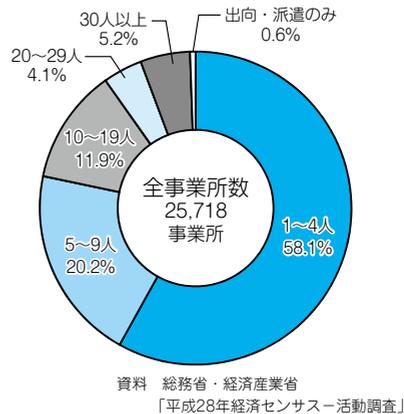
従業者規模別で見ると、1～4人が約6割を占めています。

また、産業別割合を見ると、事業所数は「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」の順となっており、従業者数では「卸売業、小売業」「医療、福祉」「製造業」の順となっています。

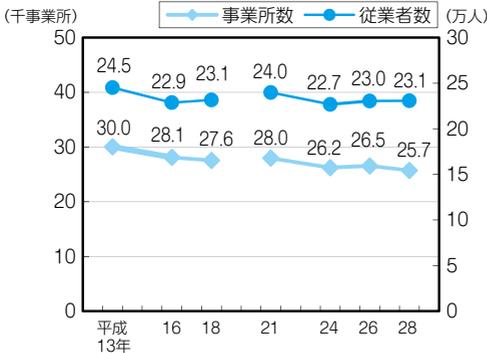
## 事業所に関する主な指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
事業所数 (人口千人当たり)	45.3	26	42.2	28
第2次産業事業所割合	14.87%	43	17.75%	28
第3次産業事業所割合	83.81%	4	81.64%	28

## 従業者規模別の事業所数割合 (平成28年)

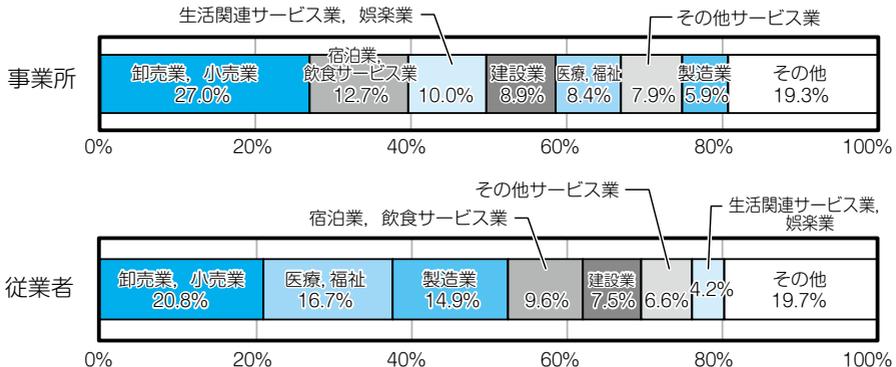


## 事業所数と従業者数の推移



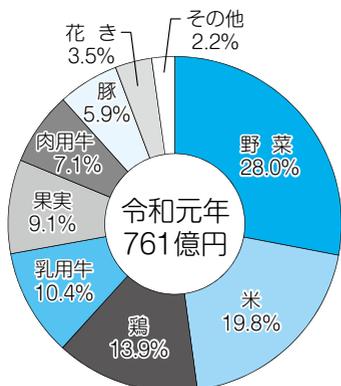
※平成18年までは事業所・企業統計調査、平成21年以降は経済センサス。

## 事業所数・従業者数の産業別割合 (平成28年)



# 農林水産業

## 農業産出額の割合



資料 農林水産省「令和元年生産農業所得統計」

## (農業)

令和元年の農業産出額の割合をみると、「野菜」の占める割合が最も高く、次いで「米」「鶏」「乳用牛」の順となっています。

また、本県の特産物である「日本なし」は10,500t（令和2年、速報値）で全国6位、「すいか」は18,100t（令和2年、速報値）で全国4位、「らっきょう」は2,259t（平成30年）で全国1位の収穫量となっています。

## 農業に関する指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
農業産出額 (農業就業人口1人当たり)	2,499 千円	39	4,020 千円	26
農家世帯割合	10.52%	3	3.13%	R 2

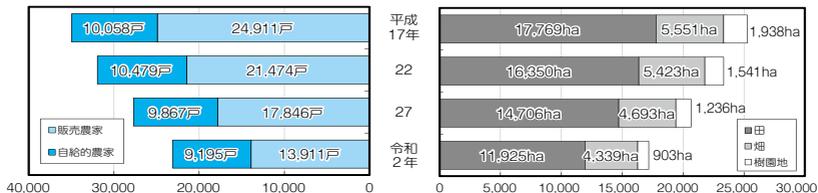
資料 農林水産省「2015農林業センサス」  
総務省「令和2年国勢調査」

## 日本なし・すいか・らっきょうの収穫量



※「日本なし」及び「すいか」は第一報。資料 農林水産省「令和2年産作物統計調査」、「平成30年産地域特産野菜生産状況調査」

## 農家数及び経営耕地面積の推移



資料 農林水産省「農林業センサス」 ※経営耕地面積について平成27年までは販売農家、令和2年は個人経営体が対象

## 家畜販売経営体数と飼養頭羽数の推移

単位：頭・羽

年次	牛		豚		採卵鶏		ブロイラー	
	経営体数	頭数	経営体数	頭数	経営体数	羽数	経営体数	羽数
平成17年	788	25,716	40	18,107	29	91,624	23	2,108,170
22	557	20,990	35	71,915	17	468,281	14	4,668,608
27	437	20,300	31	76,799	19	586,962	12	5,195,603
令和2年	322	24,971	12	16,807	15	470,166	12	8,992,151

資料 農林水産省「農林業センサス」 ※牛は乳用牛と肉用牛を合わせた数

## （林業）

平成22年から令和元年までの素材生産量の推移を見ると、増加傾向となっており、令和元年は305千㎡となっています。

## （水産業）

令和元年の海面漁業漁獲量は8万2,079tで、前年（8万3,104t）に比べ減少しています。

魚種別に見ると、前年に比べ「あじ類」「かに類」「さば類」などが減少した一方、「いわし類」が増加しています。

海面漁業産出額は201億円となり、前年の215億円から減少しています。

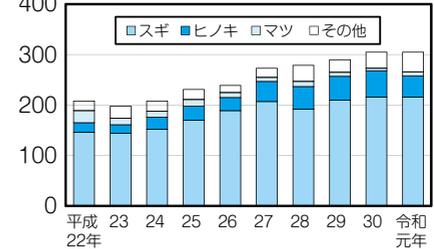
## 林業・水産業に関する指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
林業産出額	360千万円	31	45,492千万円	R 1
海面漁業算出額	201億円	14	8,682億円	R 1

資料 農林水産省「令和元年林業産出額」「令和元年漁業産出額」

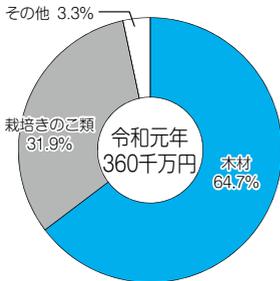
※いずれも全国は都道府県表の数値

## 樹種別素材生産量の推移



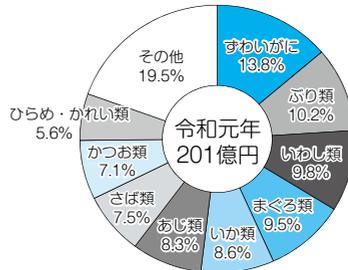
資料 県林政企画課「鳥取県林業統計」

## 林業産出額の割合



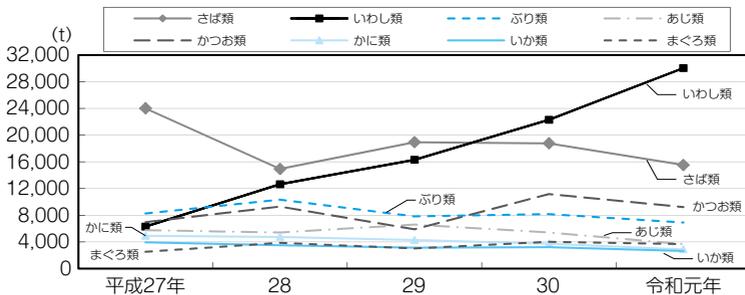
資料 農林水産省「令和元年林業産出額」

## 海面漁業産出額の割合



資料 農林水産省「令和元年漁業産出額」

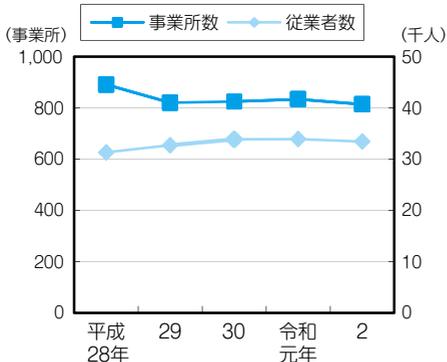
## 主要魚種別漁獲量の推移



資料 農林水産省「海面漁業生産統計調査」

# 製造業

## 事業所数・従業者数の推移

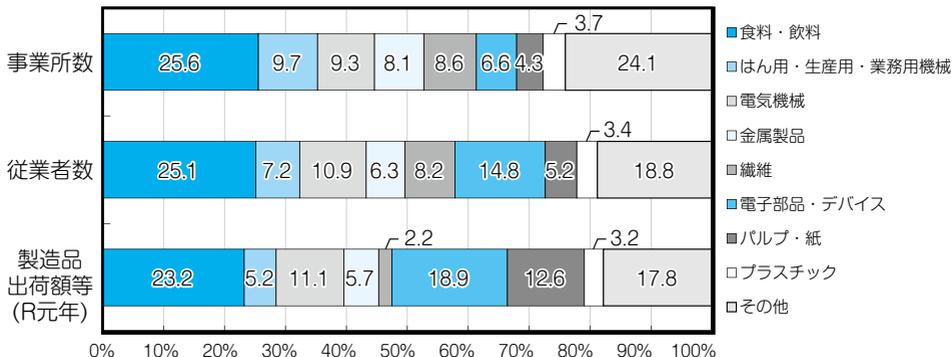


## (製造業)

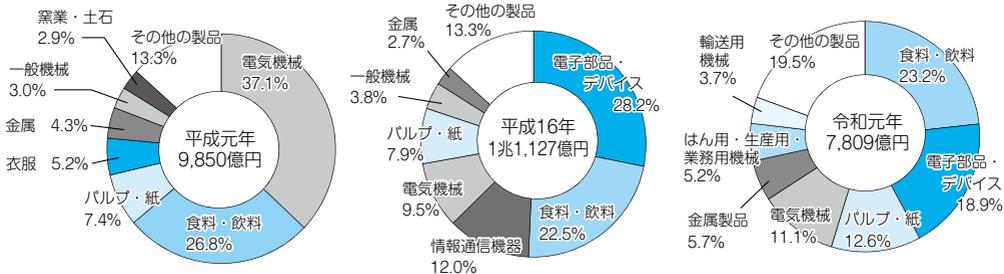
令和2年の製造業の事業所数は814事業所、従業者数は33,444人となっています。

製造品出荷額等の構成比の変化を見ると、平成元年は「電気機械\*」、平成16年は「電子部品・デバイス」、令和元年は「食料・飲料」が一番大きな割合を占めています。

## 産業別事業所数、従業者数、製造品出荷額等の構成比 (令和2年)



## 産業別製造品出荷額等の構成比の変化



\*平成元年の「電気機械」は、平成16年以降の「電子部品・デバイス」及び「情報通信機械」も含まれる。

資料 総務省・経済産業省「工業統計調査」  
従業者4人以上の事業所

## (鉱工業指数)

令和2年の鉱工業指数(平成27年=100)は、生産指数が89.4、出荷指数が91.9、在庫指数(年末)は104.5となりました。

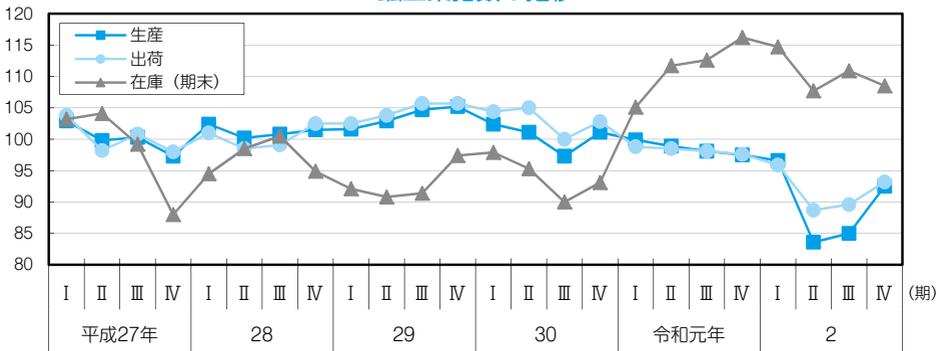
このうち、生産指数についてみると、プラスチック製品工業などは上昇しましたが、電子部品・デバイス工業やゴム製品工業などが押し下げ、全体としては低下しました。

## 製造業に関する指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
製造品出荷額等	7,816億円	45	322兆5,334億円	R 1
付加価値額(従業者1人当たり)	7,404千円	46	12,988千円	R 1

資料 総務省・経済産業省「2020年工業統計調査」

## 鉱工業指数の推移



※生産及び出荷は四半期平均、在庫は四半期末の数値(季節調整済)。

資料 県統計課「鳥取県鉱工業指数」

## 業種別鉱工業生産・出荷・在庫指数

業種	生産			出荷			在庫		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2
鉱工業	100.6	98.3	89.4	103.2	97.9	91.9	91.2	111.7	104.5
鉄鋼・非鉄金属工業	106.3	107.9	86.0	108.6	107.8	86.1	122.7	140.0	115.5
金属製品工業	79.8	81.0	83.1	83.0	84.3	85.3	76.2	90.3	84.9
汎用・生産用・業務用機械工業	104.1	95.5	79.5	101.6	88.2	75.2	94.8	102.1	103.6
電子部品・デバイス工業	103.8	93.4	84.5	101.3	89.9	87.7	114.3	145.6	136.5
電気・情報通信機械工業	82.6	73.6	77.9	110.4	88.2	97.7	41.7	90.4	117.9
輸送機械工業	142.9	139.4	106.3	143.1	140.2	106.8	x	x	x
窯業・土石製品工業	89.8	93.1	85.3	89.0	93.4	85.7	80.5	65.6	72.2
プラスチック製品工業	149.7	201.9	215.0	156.8	203.8	216.4	115.0	111.0	108.0
パルプ・紙・紙加工品工業	97.5	99.4	82.2	91.1	88.1	73.3	87.0	112.8	89.1
食料品・たばこ工業	104.3	104.2	94.3	104.4	102.9	98.1	70.2	67.0	68.4
繊維工業	92.3	88.1	83.6	93.1	91.7	85.6	86.9	86.9	71.0
木材・木製品工業	97.4	98.2	97.5	95.5	97.8	97.0	x	x	x
ゴム製品工業	110.6	108.0	75.6	110.9	105.4	74.5	113.2	144.0	150.4
その他工業	72.2	77.0	50.8	78.7	87.3	54.9	-	-	-

※生産及び出荷は年平均、在庫は年末の数値。(原指数)

資料 県統計課「鳥取県鉱工業指数」

## 商業に関する指標

指標名	鳥取県	順位	全国	年次
卸売業事業所数 (人口千人当たり)	2.78 事業所	23	2.87 事業所	28
小売業事業所数 (人口千人当たり)	9.39 事業所	19	7.80 事業所	28
小売業の年間 商品販売額 (従業者1人当たり)	18,378 千円	16	18,957 千円	27

資料 総務省・経済産業省「平成28年経済センサス」  
総務省「人口推計年報」

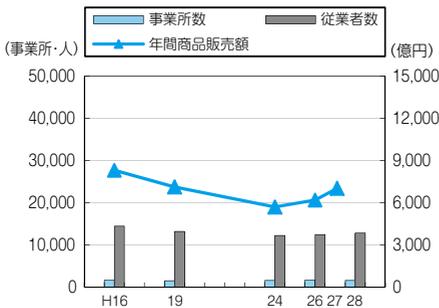
## (商業)

平成28年経済センサスー活動調査によると、卸売業は事業所数1,585事業所、従業者数は12,837人となっています。また、平成27年の業種別商品販売額を見ると、「農畜産物・水産物卸売業」の占める割合が最も高くなっています。

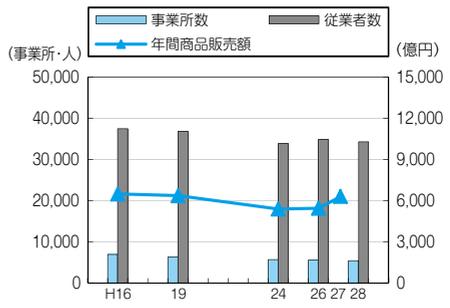
一方、小売業の事業所数は、5,353事業所、従業者数は34,299人となっています。また、業種別商品販売額を見ると、「各種食料品小売業」の占める割合が最も高くなっています。

## 商業における事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

### 卸売業



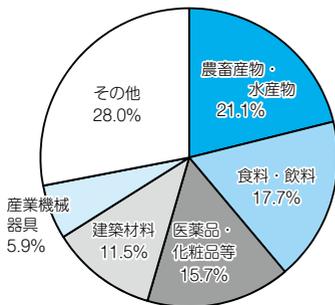
### 小売業



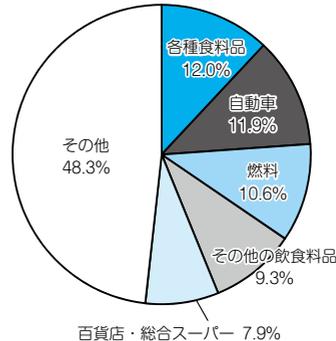
資料 経済産業省「商業統計」、平成24年、平成27年、平成28年は総務省・経済産業省「経済センサス」

## 業種別年間商品販売額構成比(平成27年)

### 卸売業



### 小売業



資料 総務省・経済産業省「平成28年経済センサス・活動調査」

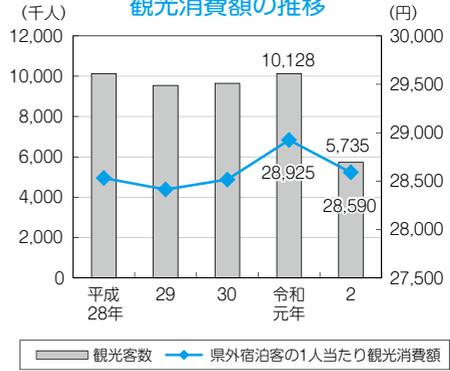
## （観 光）

観光客入込動態調査によると、令和2年の観光入込客数は5,735千人でした。

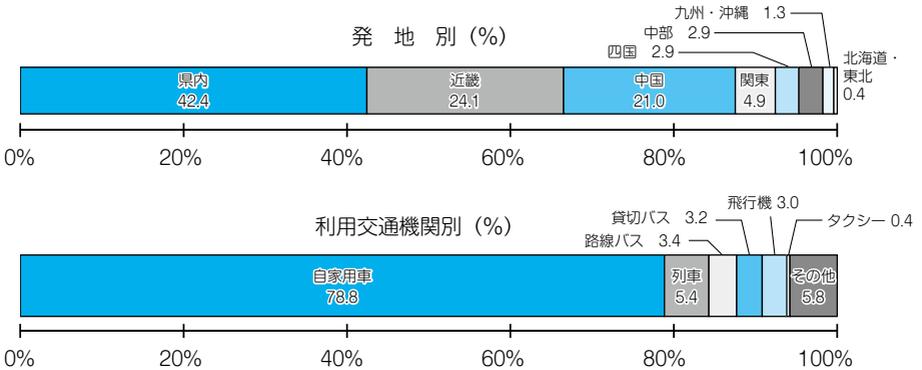
これを発地別に見ると、県内観光客の占める割合が42.4%と最も高くなっています。

地域別入込客数では、「鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺」が1,708千人で最も多く、次いで「とっとり梨の花温泉郷周辺」が772千人となっています。

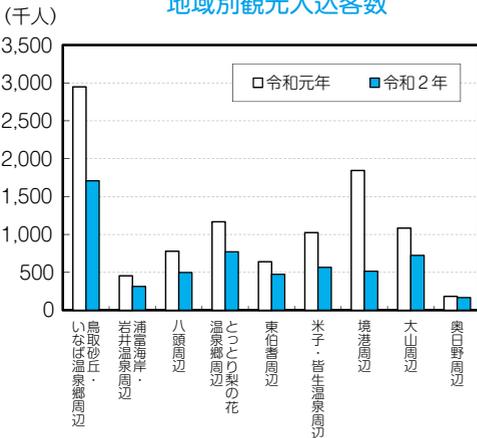
## 観光入込客数及び観光消費額の推移



## 観光入込客数の割合（令和2年）



## 地域別観光入込客数

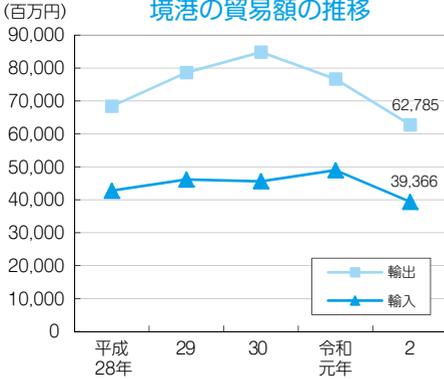


広域エリア名	観光入込客数(千人)	
	令和元年	令和2年
鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺	2,949	1,708
浦富海岸・岩井温泉周辺	456	314
八頭周辺	779	497
とっとり梨の花温泉郷周辺	1,168	772
東伯耆周辺	640	474
米子・皆生温泉周辺	1,024	566
境港周辺	1,845	514
大山周辺	1,084	724
奥日野周辺	183	166

資料 すべて 県観光戦略課「令和2年観光客入込動態調査」

# 貿易

## 境港の貿易額の推移



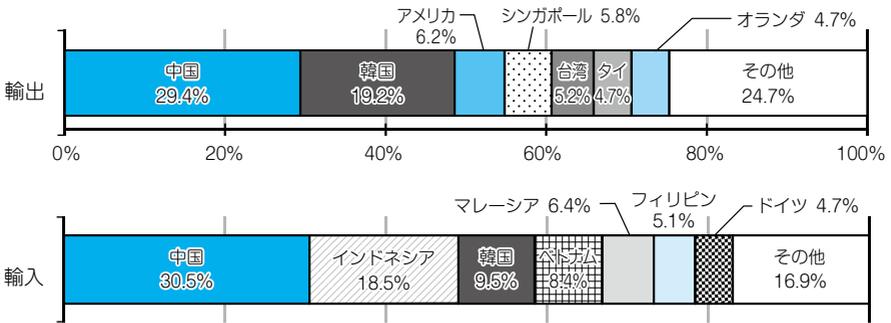
## (貿易)

令和2年の境港（米子鬼太郎空港を含む）の貿易額を見ると、前年に比べて輸入及び輸出ともに減少しています。

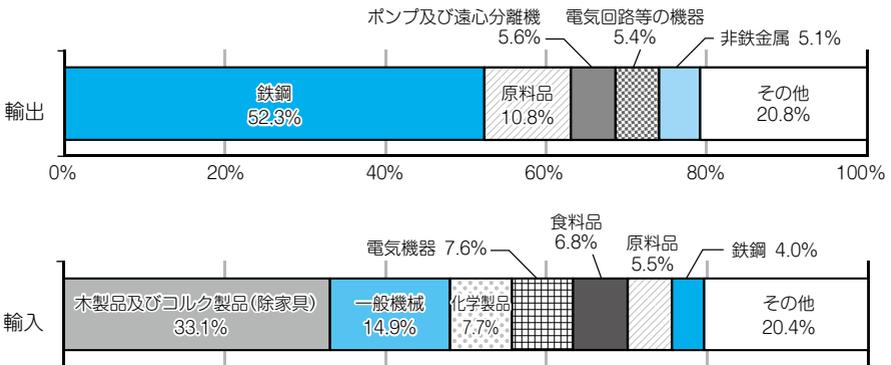
また、国別貿易額の割合を見ると、輸出、輸入とも中国の占める割合が最も高くなっています。

さらに、品目別貿易額の割合を見ると、輸出では「鉄鋼」が約半分を占めており、輸入では「木製品及びコルク製品（除家具）」「一般機械」「化学製品」の順となっています。

## 境港の国別貿易額の割合（令和2年）



## 境港の品目別貿易額の割合（令和2年）



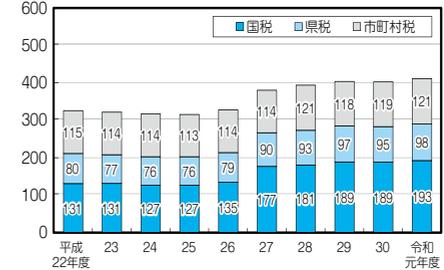
資料 すべて 神戸税関「貿易統計」

（県一般会計）

令和3年度の鳥取県の一般会計当初予算額は3,568億円となっており、県民1人当たり648千円となっています。これを目的別に見ると、「教育費」「公債費」「民生費」の順となっています。

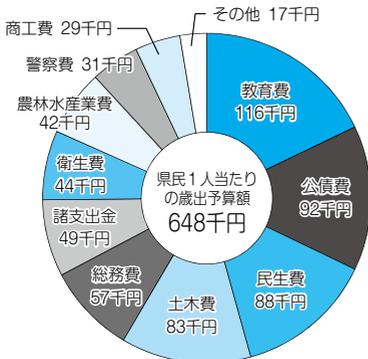
また、一般会計決算額の推移を見ると、平成25年度から29年度まで増加傾向で、30年度に減少しましたが、令和元年度以降は再び増加しています。

県民1人当たり租税負担額



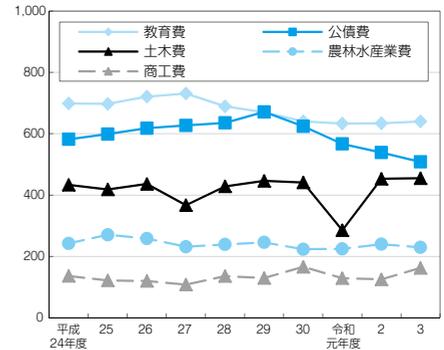
資料 国税庁「統計情報」、県務課「税務統計書」

県民1人当たりの歳出予算額  
（令和3年度当初予算）



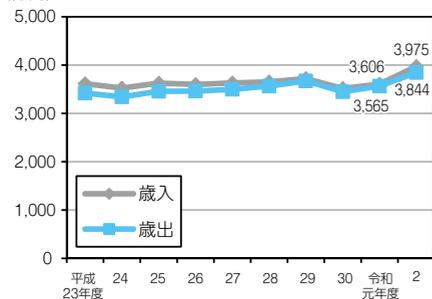
※令和3年度一般会計当初歳出予算額を令和3年4月1日現在の県推計人口（550,527人）で除したものです。

目的別予算額の推移



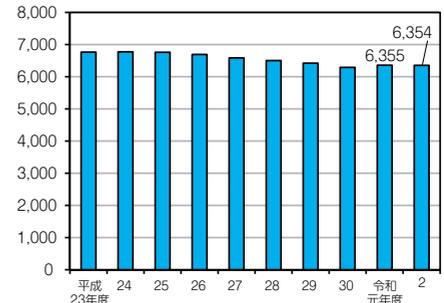
資料 県財政課「当初予算案の概要」

一般会計決算額の推移



資料 県財政課「一般会計決算」

県債現在高の推移



※一般会計ベース 資料 県財政課「県債現在高」